

2014年度RCSフォーラム

日中韓の戦略的 互惠関係と サステナビリティ



基調講演

小原 雅博

(在上海日本国総領事)

日時

2014年10月20日(月)
13:00 ~ 15:50

場所

以学館2号ホール
(立命館大学
衣笠キャンパス)

主催

立命館サステナビリティ学
研究センター

共催

立命館孔子学院
立命館大学コリア研究センター

- 開会の辞 **13:00-13:10**
中島 淳 (立命館大学理工学部教授、立命館サステナビリティ学センター長)
- 第1部 基調講演 **13:10-13:50**
小原雅博 (在上海日本国総領事)
『チャイナ・ジレンマと境界国家日本の選択』
- 第2部 パネルディスカッション **13:55-15:45**
コーディネーター：
坂本和一 (立命館大学名誉教授、立命館アジア太平洋大学初代学長)
パネリスト：
小原雅博 (在上海日本国総領事)
勝村 誠 (立命館大学政策科学部教授、立命館大学コリア研究センター長)
文 京洙 (立命館大学国際関係学部教授、学部長)
周 瑋生 (立命館大学政策科学部教授、立命館孔子学院名誉学院長、
立命館サステナビリティ学センター初代センター長)
- 閉会の辞 **15:45-15:50**
仲上健一 (立命館大学政策科学部特任教授、東京大学客員教授)



主旨

日中韓三国は、政治、軍事以外に、経済、環境、エネルギーなど多方面において、切っても切れない関係にあります。互惠補完的な協力は三国の唯一で最善の選択肢であると考えます。さまざまな複雑な事情があったときこそ、それを乗り越えていく知恵・度胸・工夫が必要となり、その中で均衡を模索し、各方面の利益を調整し、最終的に「調和」を実現することが大事です。日中韓三国は、歴史的・未来的視座から、「ゼロサムゲーム」または「マイナスゲーム」から持続可能な「ウィンウィンゲーム」へと賢明に転換することが求められています。「近者悦、遠者来（近き者が悦ばば、遠き者も来たる）」。これは孔子の教えですが、我々への警鐘とも言えるでしょう。

本フォーラムでは、小原雅博在上海日本国総領事をお迎えし、この分野における最前線で活躍している研究者との討論を通じて、日中韓の戦略的互惠関係とサステナビリティについて、皆様と一緒に考えていきたいと思えます。どうぞ奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

小原雅博氏

■ 略歴

1955年7月23日生
東京大学文学部卒、USバークレーにて修士号（アジア学）取得、立命館大学から博士号（国際関係学）を授与。1980年 東京大学文学部卒業後、外務省入省。1996年 国際連合日本政府代表部一等書記官。1998年 国際連合日本政府代表部参事官。1999年 アジア局地域政策課長。2001年 経済協力局無償資金協力課長。2003年 文部科学教官国立情報学研究所教授、早稲田大学大学院客員教授、立命館アジア太平洋大学客員教授。2005年 在ロサンゼルス総領事館首席領事。2007年 アジア大洋州局参事官。2009年 アジア大洋州局審議官。2010年 在シドニー総領事。2013年 在上海総領事。

■ 著書

『東アジア共同体 強大化する中国と日本の戦略』日本経済新聞出版社（2005）
『国益と外交 世界システムと日本の戦略』日本経済新聞出版社（2007）
『外交官の父が伝える素顔のアメリカ人の生活と英語』ディスカヴァー・トゥエンティワン（2008）
『日本走向何方』（中国語）中信出版社（2009）
『15歳からの外交官が書いた国際問題がとりあえず全部わかる本』ディスカヴァー・トゥエンティワン（2009）
『チャイナ・ジレンマ』ディスカヴァー・トゥエンティワン（2012）
『「境界国家」論—日本は国家存亡の危機を乗り越えられるか？』時事通信出版局（2012）